

学校評価アンケート結果報告

令和5年1月
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けております。教育環境整備と質的向上、より大きな教育成果を目指して様々な取り組みを重ねて参りました。その成果を確認するとともに、さらなる改善に向けた課題形成を図る機会として本年度も学校評価アンケートを実施しました。集計結果に分析を加えて、学校改革・教育改善の進捗をお伝えすべく、本書面をまとめました。ご高覧のうえ、ご意見等を頂戴できれば幸いです。

学校長 岩本信久

凡例と集計方法について

凡例: ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。グラフ中の数値は小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。今後も情報発信の充実を図り、教育意図の説明をはっきり行うことで、皆様からご明確なご判断を仰げるように努めて参ります。

「入学させて良かった」は9割超を維持

Q1 お子様を大阪高校へ入学させてよかった(知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい)と思われますか。



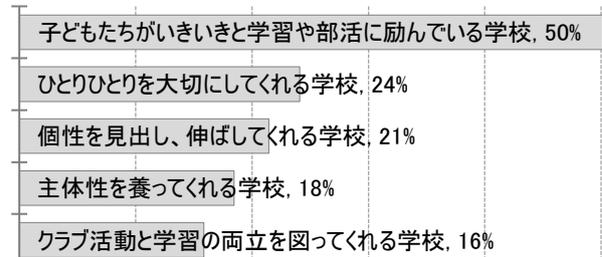
毎年お尋ねしている「大阪高校に入学させて良かったか」という質問では、肯定的な回答が占める割合が9割以上で推移しています。但し、昨年と比べて「どちらかと言えば」という但し書きなしに「そう思う」を選んだ割合は4ポイントほど減少しています。多くのご家庭が「まだ充足されていない期待」を抱えておられることを改めて共通認識とし、教育活動の一層の改善に学校を挙げて取り組んで参ります。

データを解析してみると、総合的な満足度を左右する主要因は、「学力向上(学習指導)」「進路希望の発見と実現(進路指導)」に加えて「将来と結びつけて今なすべきことを考えられる力の獲得」などです。子どもに獲得させたい資質でも「将来を切り開いていく力」を選んだ家庭が最多であり、その土台となる確かな学力の形成、一人ひとりの資質や志向に合致した進路の実現にこれまで以上の注力をお約束いたします。学習指導では、新課程への移行に先駆けて、生徒による授業評価アンケート(年2回実施)の評

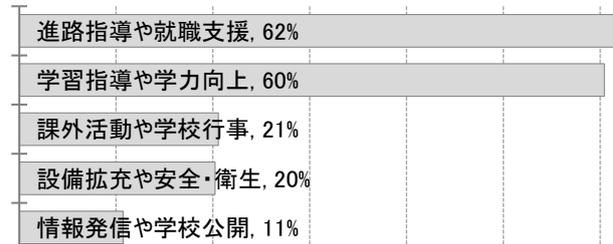
価項目を「新しい学力観」に沿ったものに2020年度から変更して、新たな方向性の下で授業改善に取り組んできました。ここに来て、その成果を実感できる部分も増えてきました。また、進路指導を始めとする様々な学びと体験の場を経験するたびの「振り返り」を通じ、生徒の「メタ認知・適応的学習力」(新課程の土台となった21世紀型能力において「思考力」の構成要素とされています)のさらなる向上を図っていきます。歩を止めることなくこれらの取り組みを進め、自分の未来を拓こうとする生徒一人ひとりの頑張りを教職員一丸で支えていこうと思います。

学校のイメージと改善課題

Q2 本校の特徴として次のどれが当てはまりますか。



Q3 学校にさらなる充実を求めたいものは何ですか。

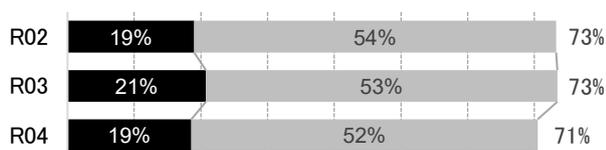


本校の特徴として最も多くの保護者が挙げたのが「子どもたちがいきいきと学習や部活に励んでいる学校」であり、充実を求めたいもので「進路指導や就職支援」「学習指導や学力向上」が多くを占めるのはこれまでと変わりません。イメージや期待に違うことのない学校経営を心掛けていきたいと思っております。

学習指導と進路指導のさらなる充実

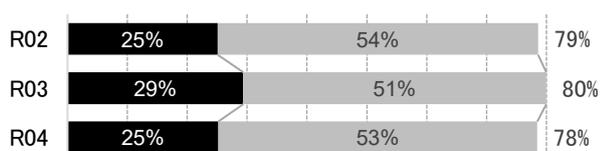
「学習指導や学力向上」「進路指導や就職支援」でのさらなる充実を求める多くの声に応えるべく様々な改善策を講じてきましたが、保護者の期待に応えきれていないところがまだあり、教職員もまたさらに改善を進める必要を感じています。新年度に向けて、これまで以上に実効性のある改善計画を立てるべく分掌や学年での検討を進めているところです。

Q4 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われませんか。



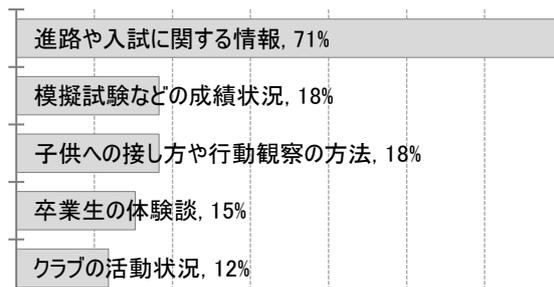
学習指導への評価は、肯定的な回答が占める割合が71%と、昨年度から2ポイント低下しています。教職員の自己評価でも、改善課題ありとする認識が多く、授業評価アンケートなどのデータを用い、改善課題の洗い出しを進めています。新課程になり、獲得を目指す学力にも変化が生じており、それらに応じた新しい指導手法の開発も加速していきたいと考えます。また、学びに向かう生徒の姿も保護者の皆様にもこれまで以上にわかりやすく伝えていく所存です。

Q5 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思われませんか。



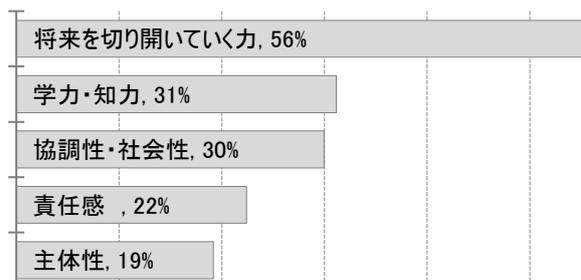
進路指導への評価も昨年をわずかながら下回りました。3年の保護者からは、概ね良好な評価を得ていますが、1年と2年は改善の余地が大きく残ります。学校は引き続き3年間を見通した計画的な進路指導に取り組んでいますが、指導全体の流れや各時期の指導の内容とその成果などを保護者の皆様にも理解していただけるよう、情報発信の充実に努めていく必要を改めて感じています。学年・学期が進んでいく中で生徒が通過する様々な選択に備えて行う「進路ガイダンス」等の内容についても保護者会で触れていく予定です。生徒の「情熱とチャレンジ」を応援すべく、指導の改善を重ね、充実を図って参ります。

Q6 保護者会などで取り上げてほしいことは？



「保護者会やクラス懇談会で取り上げてほしいこと、充実を望むことはどれですか」という質問に対し、これまで同様、「進路や入試に関する情報」の選択が圧倒的に多く見られ、進路を取り巻く状況と実際の指導の様子に強い関心が向けられていることにこれまでと変わりありません。コース・学年ごとのニーズをより精緻、且つタイムリーに把握する仕組み作りにも取り組んでいきたいと考えております。

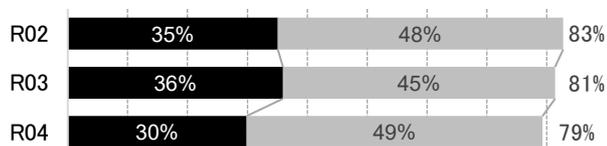
Q7 子どもに獲得させたい資質はどれですか。



子どもに獲得させたい資質に挙げた項目もこれまでと大きくは変わりありません。前述の通り、「将来を切り開いていく力」がトップですので、その獲得には最優先で取り組みたいと思います。将来を切り開くのに必要となる能力・資質の一つひとつを日々の指導（生活、学習、進路）の中で育てて参ります。また、「協調性・社会性」「責任感」は、学年が上がるごとに選択率が高まる傾向が見られます。生徒一人ひとりが自らの力を他者との関係の中で正しく活用できるよう、担当者等周囲からの声掛けや役割の付与等により、様々な力をバランス良く身に付けさせていく所存です。今年から選択肢には「自主自立の姿勢」に代えて、「主体性」を加えました。何かに取り組むときに、「自分の理由」を持ち、且つそれを遂行できる方策に習熟してこそその主体性であると考えます。自学自習に取り組む姿勢、自分に向き合い進路について考える行動の中に、すべての生徒に備わった十分な主体性が発現されることを目指し、これからも指導を進めていきます。

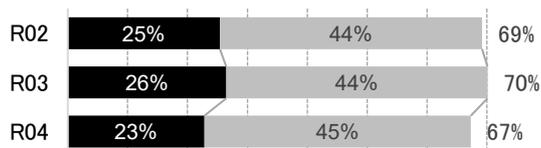
目標をもってひたむきに頑張る姿

Q8 保護者の目から見てお子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていると思いますか。



「お子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていますか」という問いへの肯定的な回答が占める割合は連続して低下して、今期は79%となりました。生徒の情熱とチャレンジを応援することを校是としている以上、巻き返しに有効な策を早急に講じる必要を教職員の間で共有したところです。学習、進路、部活、行事といった学校生活のあらゆる場面での活動に、生徒一人ひとりが自分の目的を見出させるよう、振り返りと次に向けた課題の設定に取り組みせる指導の充実を図ります。別の質問で尋ねた「頑張る対象」で教科学習、進路実現、クラブ活動を選んだ保護者が、この問い(Q8)に肯定的な答えを選ぶ傾向は例年と同じです。この辺りに特に注力して、生徒一人ひとりが力を出し切れる場をこれまで以上に整え、努力を後押ししていきます。

Q9 お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか。



学習面に絞ってお尋ねした「お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか」という質問でも、昨年まで連続して伸びていた肯定的な回答が占める割合が減少に転じました。2年と3年は微増ですが、1年の低下が全体を引き下げました。新課程への移行で学びのあり方が大きく変わった学年ですので、それに応じた対応を重ねてきましたが、改善の余地が大きく残ったとの認識でおります。改めて日々の学習への取り組み方を確認し、必要な指導を遅滞なく実施します。考査や模試の結果が戻ったときにそれまでの学習行動等を振り返ってもらうことで、より具体的な行動を伴った「主体的に学ぶ姿勢」を養っていこうと思います。

また、生徒一人ひとりが「学ぶことへの自分の理由」を見つけられるよう、「学習・探究・進路の各指導の一体化」の実現を今後もしっかり進めていきます。

安全確保と規律ある生活の実現



「生徒の安全に対する学校の取り組み」と「高校生にふさわしい規律ある生活」は肯定的な回答が占める割合が昨年度からそれぞれ4ポイント、3ポイント低下しました。また、「どちらかと言えば」との但し書きがつくものが多く、指導に見直すべき点がありそうです。どのような場面での指導に問題があったか、検討と対策の立案を急いでいるところです。

学校広報のさらなる充実を図ります

Q12 学校からの連絡文書や懇談会などを通じて学校の様子は十分に知ることができますか。



学校広報については、肯定的な回答の占める割合こそ88%で前回と変わりませんが、「そう思う」との積極的な肯定は4ポイント低下しています。様々な教育活動の意図と方法、及び成果を余すところなく伝えることの重要性を鑑み、今期の低下を早期に取り返すべく、改めて発信情報の充実を図ります。

Q13 進路希望や将来の職業あるいは学校での様子などについて家庭で話をすることはありますか。

- ①話をする機会がよくあり、保護者も関心をもって会話に臨んでいる
- ②話をする機会はあるが、あまり突っ込んだ話にはならない



行動選択(Q12)や自律学習(Q9)に強く影響する項目です。ご家庭での会話を充実したものにすべく、これまで以上に、時期に応じた適切な話題と材料となる情報の提供に学校を挙げて努めて参ります。

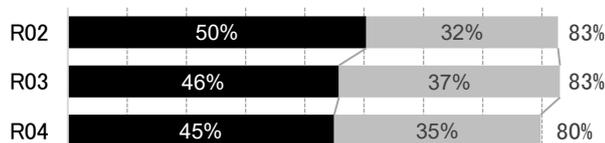
学校行事、部活動の指導

Q14 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。



引き続き高い評価をいただくことができました。生徒の主体性や協働性を育む教育の場として、これからも「生徒が主役の学校行事」の実現に努めます。

Q15 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われませんか。



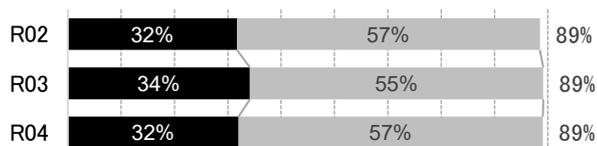
部活動顧問の指導に対する評価は、わずかに後退しています。回答には「わからない」も多く、生徒が熱心に部活動に取り組んでいても、ご家庭で顧問の指導を評価するだけの判断材料となる情報が不足したものと考えます。学習指導、進路指導、学校行事と同様に、部活動指導の方針なども、しっかり理解を得られるよう、これまで以上に指導の様子を伝えます。

将来を考えた行動選択、共存の資質

Q16 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。



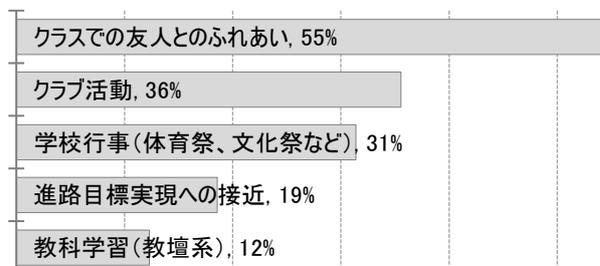
Q17 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。



保護者の目を通した生徒の成長ぶりを「将来と結びつけた行動の選択」「立場の異なる相手に耳を傾ける姿勢」という2点でお尋ねしました。前者は評価

に低下が連続しており、前述のメタ認知・適応的学習力の涵養をメインに、早急に対策を講じていきます。後者は概ね良好な評価ですが、改善の余地も残っていますので、観察と指導に今後も注力します。

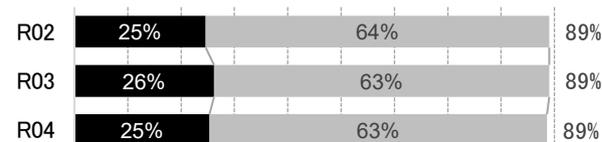
Q18 お子様在意欲や目標をもって学校に進んで通う姿勢を示している対象は何ですか。



育友会の活動、保護者との相互理解

Q19 育友会について	R02	R03	R04
1. たいへんに関心があり、内容も分かっている	6.6%	4.8%	3.6%
2. 関心はあるが、内容についてはよくわからないことが多い	33.7%	33.6%	33.7%
3. あまり関心はないが、活動の内容はある程度知っている	25.9%	20.2%	18.8%
4. あまり関心はないし、活動の内容もよく知らない	33.7%	41.3%	43.9%

Q20 学校は、保護者や地域からの要望・意見に対して誠実に対応していると思いませんか。



育友会への関心と理解は低下が続き、対策の必要を感じています。また、保護者の要望・意見への学校の誠実な対応には肯定的な評価が大半を占めますが、「そう思う」は4分の1から増えません。このアンケートでお寄せいただいた声にもこれまで以上にしっかり応えていく決意を新たにしました。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719

保護者による学校評価アンケート担当: 教頭 上山 陽